

97. 「西区在宅ケア連絡会」の活動について (V)

～住民参加型の地域ネットワークの構築をめざして～

坂本 仁*1、篠原正英*2、池田明穂*3、小池忠康*4

はじめに

今後の地域医療の課題として、高齢者を中心とした在宅療養者への支援態勢の充実があげられている。札幌市西区では、平成9年8月、西区内に居住し在宅療養を希望する人の、在宅療養支援のための連絡調整をはかることを目的とした「西区在宅ケア連絡会」が発足し活動を行っている。前回までに、第48回までの連絡会の活動を報告したが、今回はその後の平成14年12月、第58回までの活動を報告する。

活動状況

「西区在宅ケア連絡会」の開催は、その後もほぼ毎月1回開催されており(表1)、出席者は医師、看護師、PT、OT、病院勤務のSW、保健師、行政職、さらには調剤薬局、栄養士、その他の在宅療養関連の職種からの参加など、毎回約60名を数えている。症例の検討は2、3例、当初からの研修会も継続されている(表2)。昨年までの活動の結果、住民参加型の形態をいかに構築できるか、が今後の課題としてあげられたので今年度は、広く一般市民の参加も呼びかけた活動も行わ

れたのでそれを中心に報告する。

平成14年5月、第52回連絡会は、「変わる医療、どうなる在宅療養」と題したシンポジウムを開催、医療制度の改革を受けて、実際の在宅療養にどのような影響があるのかなどについて情報交換が行われた。出席者は、一般市民50名をふくめて280名であった(写真1)。急性期病院の立場からは、制度改革により在院日数の短縮化が求められることによる影響、慢性期病院の立場からは、長期入院の制限、自己負担の増加を求められる事による影響、訪問診療を行う医師の立場からは、今後ますますケアチーム内の連携と情報共有の重要性が増すこと、患者、家族の立場からは、これらの情勢変化に対するご意見、ケアチームに対するご要望などが述べられた。とくに、急性期、慢性期医療機関、介護保険施設などと、在宅療養との間の、入退院、入退所が将来的にどのように変化していくかの将来像が示され、そこには、情報共有と機能連携が欠かせないことであり、そのためのカンファレンスが重要な意義をもつことが強調された(図1)。

平成14年8月、第53回連絡会は、「痴呆症をあきらめない」と題した市民フォーラムを開催した。「あなただけで、ご家族だけで、悩んでいませんか?」と広く住民の方々にも呼びかけた結果、420名が参加した。特別養護老人ホームの職員による介護劇「手稲家のある日の出来事」が上演さ

表1 開催状況

回	開催日	出席者(医師)	新規検討	経過報告	特集
49	14年 2月 12日	48名(7名)	2例	1例	緊急時対応
50	3 12	52(4)	2		児童虐待
51	4 9	52(4)			その後の経過、結果報告
52	5 14	280			シンポジウム
53	6 11	70(7)	2		退院時カンファレンス
54	7 9	64(6)	1		情報共有
55	8 20	420			市民フォーラム
56	9 10	62(6)	2		情報提供
57	11 12	76(6)	3		ケア運営成情報票
58	12 10	47(5)			介護保険3施設

表2 研修テーマ

49	在宅療養者への救急対応について	「安心カード」の紹介
50	児童虐待の予防、防止と保健センターの役割	
51	これまでに検討された、№9082から№9101までの事例のその後の経過、結果報告	
52	シンポジウム「変わる医療、どうなる在宅療養」	医療制度改革の在宅療養への影響について
53	退院時カンファレンスについて	
54	在宅療養を開始するにあたっての情報共有について	
55	市民フォーラム「痴呆症をあきらめない」	特養職員による介護劇と北海道医療大学中野教授の講演会
56	退院から在宅へ、在宅から入院への情報提供について	
57	ケア連絡会作成「情報共有のための基本的情報票」について、アンケート調査	
58	介護保険3施設(特養、老健、介護型医療施設)の現状について	



写真1 シンポジウム風景

(札幌市医師会西区支部地域社会部) * 1 医療法人社団坂本医院、* 2 札幌山の大病院、* 3 札幌太田病院
* 4 小池外科胃腸科

れ、痴呆老人を取り巻く人々の対応とその中に込められた介護者へのメッセージは強く観劇者のこ

ころを打つものであった。その後、北海道医療大学中野倫仁教授による「痴呆の正しい理解」の講演があり参加者は痴呆老人への対応について多くのものが得られた(写真2)。

考 察

当初からこれまで100例を超える症例検討を通じて、在宅療養希望者への地域の受け皿として機能していることが実感される。また、14年秋に行った参加者へのアンケートでは、いままでの回答と同様にほぼ現在の活動状況で良い、との結果が出され、西区内の大きな「地域ネットワーク」形成を目指すことには80%の人が賛成と答えている。今年度は、シンポジウム、フォーラムを開催し住民と共になにができるか、地域ネットワークをどのように構築できるか模索しながらの活動となった。

おわりに

在宅療養支援のための住民参加型の地域ネットワークの構築をめざした「西区在宅ケア連絡会」の活動について報告した。今後さらに、草の根の横への広がりを着実なものにすることをめざして継続することが肝要と思われた。

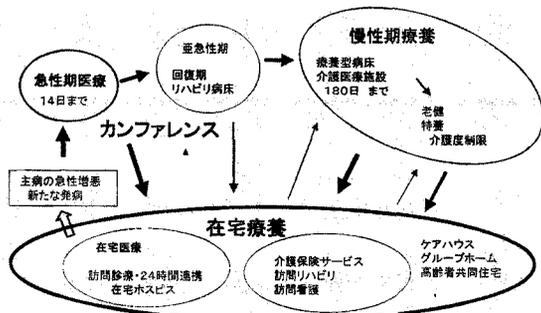


図1 在宅療養、入、転、退院、入、退所の動向の将来像

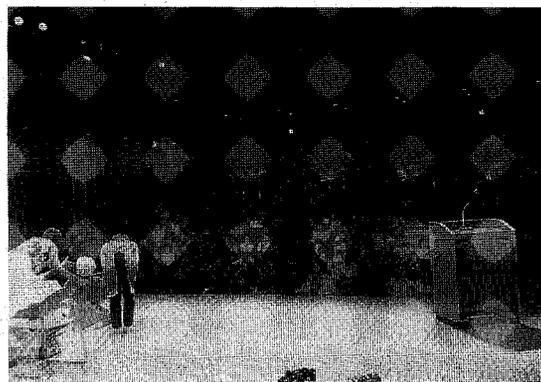


写真2 市民フォーラム風景